

第5回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 次 第

1. 日 時 昭和60年3月20日（水）

午後3時30分～4時

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題 (1) 宇宙開発に関する基本計画について
(2) 昭和59年度宇宙開発委員会外国人招へいについて

4. 資 料

委5-1 第4回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）

委5-2 宇宙開発に関する基本計画について（60研第38号）

委5-3 宇宙開発に関する基本計画について（案）

委5-4 昭和59年度宇宙開発委員会外国人招へいについて（案）

委 5-1

第4回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨 （案）

1. 日 時 昭和60年3月13日（水）
午後2時～2時30分

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題 宇宙開発計画について
の要旨について

4. 資 料

委4-1 第3回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）

委4-2 宇宙開発計画（案）

5. 出 席 者

宇宙開発委員会委員長代理

〃 委員

〃 〃

〃 〃

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

〃 長官官房審議官

文部省学術国際局審議官

吉 識 雅 夫

斎 藤 成 文

井 上 啓次郎

大 塚 茂

内 田 勇 夫

三 浦 信

植 木 浩

（代理：柴崎）

運輸省大臣官房審議官

〃 海上保安庁総務部長

〃 気象庁総務部長

郵政省通信政策局次長

文部省宇宙科学研究所研究協力課長

宇宙開発事業団計画管理部計画管理課

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

〃 〃 宇宙開発課長

大 塚 秀 夫

（代理：大松）

廣 瀬 好 宏

（代理：成瀬）

新 谷 智 人

（代理：中村）

森 本 哲 夫

（代理：田中）

長谷部 昌 弘

国 井 清 人

石 井 敏 弘

鍵 本 潔

他

6. 議 事

（1） 前回議事要旨の確認

第3回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨案（資料委4-1）

が確認された。

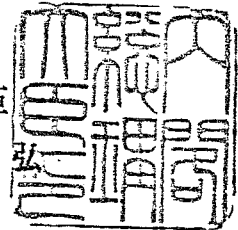
（2） 宇宙開発計画の見直しについて

宇宙開発計画が資料委4-2のとおり決定された。

60 研 第 3 8 号
昭和 6 0 年 3 月 1 9 日

宇宙開発委員会委員長
竹 内 黎 一 殿

内閣総理大臣
中 曾 根 康 弘



宇宙開発に関する基本計画について

標記について、別紙のとおり定めたく、宇宙開発事業団法（昭和 4 4 年法律第 5 0 号）第 2 4 条に規定する貴委員会の議決を要請する。



別紙

宇宙開発に関する基本計画

我が国の宇宙開発に関する基本計画を下記のとおり定める。

記

我が国の宇宙開発は、内外における宇宙開発の現状、今後の見通し等を踏まえ、次により総合的かつ計画的に推進することとし、関係各界の総力を挙げて、これに取り組むこととする。

1. 開発の実施は、宇宙開発委員会が定めた宇宙開発計画（昭和 60 年 3 月 13 日決定）に基づいて行う。
2. 開発体制については、宇宙開発委員会における重要施策の企画調整の一層の推進を図る。また、関係各機関は、宇宙開発委員会の方針に沿って、その分担と役割に応じ、相互の協力を緊密化しつつ研究及び開発を進める。
3. 開発を進めるに当たっては、進捗状況の把握及び成果の評価を行いつつ、計画の管理を合理的に行うとともに、特に資金の効率的な運用に配慮する。その際、これまでの開発経験を十分反映させるものとする。

宇宙開発に関する基本計画について(案)

昭和60年3月20日

宇宙開発委員会
議 決

我が国の宇宙開発に関する基本計画を下記のとおり定めることについては、異議がない。

記

我が国の宇宙開発は、内外における宇宙開発の現状、今後の見通し等を踏まえ、次により総合的かつ計画的に推進することとし、関係各界の総力を挙げて、これに取り組むこととする。

1. 開発の実施は、宇宙開発委員会が定めた宇宙開発計画(昭和60年3月13日決定)に基づいて行う。
2. 開発体制については、宇宙開発委員会における重要施策の企画調整の一層の推進を図る。また、関係各機関は、宇宙開発委員会の方針に沿って、その分担と役割に応じ、相互の協力を緊密化しつつ研究及び開発を進める。
3. 開発を進めるに当たっては、進捗状況の把握及び成果の評価を行いつつ、計画の管理を合理的に行うとともに、特に資金の効率的な運用に配慮する。
その際、これまでの開発経験を十分反映させるものとする。

昭和59年度宇宙開発委員会外国人招へいについて(案)

昭和60年3月20日
宇宙開発委員会
決 定

昭和59年度における宇宙開発委員会外国人招へいとして、西独研究
技術省マイクログラビティ利用総括主任 Dr. G. Greger を3月22日
から3月27日の間、及び西独研究技術省多国間協力総括主任 Dr. C.
Patermann を3月25日から3月30日の間、招へいすることとする。

参 考

招 へ い 日 程

Dr. G. Greger

- | | |
|----------|---|
| 3月22日(金) | 来 日 |
| 3月23日(土) | 事前打合せ |
| 3月24日(日) | |
| 3月25日(月) | 第2回微小重力下における研究に関する
日・独・ESA合同シンポジウムへの出席 |
| 3月26日(火) | 〃 |
| 3月27日(水) | 宇宙開発委員会委員との懇談
マイクログラビティ講演会(経団連)への出席
離 日 |

Dr. C. Patermann

- | | |
|----------|---|
| 3月25日(月) | 来 日 |
| 3月26日(火) | 第2回微小重力下における研究に関する
日・独・ESA合同シンポジウムへの出席 |
| 3月27日(水) | 宇宙開発委員会委員との懇談
マイクログラビティ講演会(経団連)への出席 |
| 3月28日(木) | 科学技術庁訪問
宇宙開発事業団訪問 |
| 3月29日(金) | 宇宙関係施設の見学 |
| 3月30日(土) | 離 日 |

略 歴

Dr. G. Greger

1957年

ミュンヘン大学 卒業 (物理学博士)

1957年～64年

民間企業において半導体材料の開発に従事
研究技術省に入省

1964年

科学衛星(HELIOS)、通信衛星、新軌道システム(スペースラブ等)の開発及びスペースラブ利用ミッションを担当

現 在

西独研究技術省 新軌道システム・宇宙輸送システム・マイクログラビティ利用総括主任

Dr. C. Patermann

1962年

フライブルグ大学、ローザンヌ大学、
ジュネーブ大学、ミュンヘン大学、
ボン大学で法律学及び経済学を学ぶ
司法試験合格

1971年

研究技術省に入省

1971年

1974年

科学アタッシェとしてワシントンに駐在
国際原子力燃料サイクル評価(INFCE)課長
ハウシルト次官秘書

1978年

1980年

1982年

多国間協力(ESA、国連等)総括主任
なお、ESAにおいても西ドイツの代表として1982年から84年半ばまで、財政管理委員会委員長、1984年半ばからは、国際関係諮問委員会委員長をつとめている。

西ドイツの宇宙開発の概要

1. 宇宙開発計画

西ドイツの宇宙開発は、研究技術省(BMFT)を中心に進められている。

また、開発実施機関として研究技術省の監督下に航空宇宙技術研究所(DFVLR)が設置されている。

西ドイツは、ESAの主要メンバー国であり、特にスペースラブの開発では中心的役割を果たしてきた。また、独自にも科学衛星、通信衛星、スペースラブD-1ミッション等の計画を進めており、さらに、2国間協力としては、独仏共同開発による直接放送衛星TV-Sat/TDF-1、米国とのROSAT、ガリレオ等の計画を進めている。

(1) 実利用分野

① 通信・放送

フランスと共同で実験用静止通信衛星シンフォニーを開発し、1974年12月及び1975年8月に米国のロケットによって打ち上げ、各種通信実験を行っている。また、現在、フランスと共同で実験用直接放送衛星TV-SAT(フランスはTDF-1)の開発を進めており、1986年に打上げを予定している。さらに、国内通信を目的に通信衛星DFS-1を1987年に打上げる計画を有している。

② 宇宙実験

西ドイツは、微小重力環境を利用した研究に力を注いでおり、SPAS(シャトルパレット衛星)等を利用して材料実験を実施しているほか、1985年及び1988年に単独でスペースラブを利用し、各種宇宙実験を実施する予定である。(D-1,D-2 計画)

また、ESA計画であるEURECA計画、コロンブス計画を推進している。

(2) 科学分野

西ドイツは、これまでに、バンアレン帯等を観測する AZUR (1969年11月打上げ)、上層大気観測衛星 AEROS-1、-2 (1972年12月、1974年7月打上げ)、太陽観測衛星 HELIOS-1、-2 (1974年12月、1976年1月打上げ)を米国のロケットで打ち上げている。

また、現在、米国と共同で、X線天文衛星 ROSAT を1987年に打上げを予定しているほか、木星探査機ガリレオに観測機器を搭載し、1986年に打上げを予定している。

2. 研究技術省(BMFT)宇宙開発予算

M DM

年 度 項 目	1982	1983	1984	1985
研 究	1.9	2.8	2.5	2.8
技 術	18.0	18.0	20.0	16.5
スペースラブの利用	34.9	38.1	40.0	44.0
シャトル打上げ価格	16.2	35.0	60.8	62.0
リモートセンシング	11.0	9.6	12.4	13.0
上層大気研究	36.6	42.9	41.0	37.0
施設運用	26.0	23.2	24.1	25.0
E S A 出資金	336.0	349.0	380.0	400.0
通信衛星	115.0	80.5	60.0※	45.7※
科学衛星 (GALILEO, ROSAT)	28.5	27.3	39.5	90.3
D F V L R	72.3	80.0	83.5	85.6
計	696.4	710.4	763.8	821.9

※) その他、郵政省分担金 7 0 M DM

3. 宇宙開発体制

